

小中一貫・連携教育「やってみたいこと」

学校通信 小中一貫・連携教育特集号「第162号」で尾倉中のみなさんが血倉小学校の児童とやってみたいことを紹介しました。それを、血倉小学校の森永校長先生が分かりやすくまとめてくれました。今回は、それを紹介します。

血倉小学校のみんなと やってみたい、教えたい、 あんなこと・こんなこと

尾倉中学校と血倉小学校は、9年間を通してみなさんが成長できるよう、小・中一貫教育をすすめます。学校生活や学習・行事など、尾倉中学校のみなさんは、小学生とどんなことをしてみたいですか？アンケートの結果をお知らせします。



テキストマイニングとは？

「テキストマイニング」とは、自然言語解析などの手法を用いて、大量のテキストデータを分析するプロセスにより、付加価値の高い「知見」を探し出す技術です。「マイニング」とは「地下資源採掘」を意味しており、大量のテキストデータから有用な情報を「発掘」という意味を含んでいます。(難しいね)

人間が使用する一般的な文章データについて、文章を単語レベル(名詞/動詞/副詞/形容詞/慣用句/句読点など)に分け、それらの「出現頻度」「出現順序」「出現傾向」「共出現相関」「時間的变化」「語意の性質」などを解析することで、「有益な情報」や「傾向」を取り出すことを目的とするテキストデータ分析手法とされています。

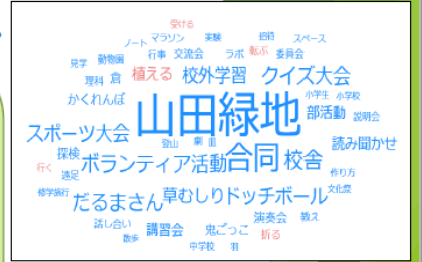
中学校のみなさんのアンケートの文章をテキストマイニングというツールでAI分析してみました。ワードクラウドという手法で、みなさんの意見を可視化しています。

- ▶ ワードクラウド
- ▶ スコアが高い単語を複数選び出し、その値に応じた大きさで図示しています。
- ▶ 単語の色は品詞の種類で異っており、青色が名詞、赤色が動詞、緑色が形容詞、灰色が感動詞を表しています。



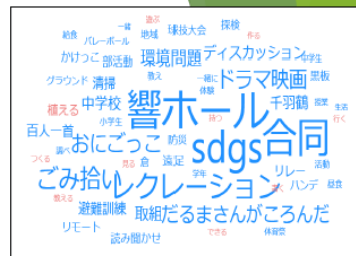
中学1年生の考え

中学1年生のアンケートの中で一番多く出てきた言葉は、「山田緑地」でした。「山田緑地」の言葉のまわりには、一緒にやってみたい内容が多く出てきています。学校の場を離れて、様々な活動を一緒にやりたいと思っている人が多いことが、文字の大きさから分かりますね。小学生と一緒に楽しみたいという中学1年生らしいアンケート結果になりました。



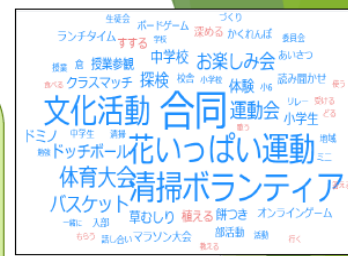
中学2年生の考え

2年生のアンケートの中で一番多く出てきた言葉は、「響ホール」でした。「響ホール」の他に「合同」や「SDGS」「環境問題」「ごみ拾い」などユネスコスクールの学びを積み重ねてきた中学2年生らしい内容になっています。「レクリエーション」や「おにごっこ」「だるまさんがころんだ」など、小学生の立場に立った回答もほほえましいですね。



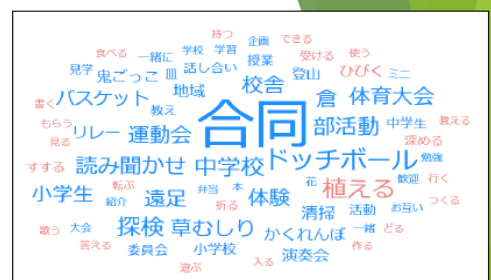
中学3年生の考え

中学3年生のアンケートの中で一番多く出てきた言葉は、「合同」「花いっぱい運動」でした。他にも「文化活動」「清掃ボランティア」などの言葉が大きいことから、中学3年生は、小学生と一緒に楽しみたいという気持ちと同様に、地域の役に立つ活動をしたいと思っている人が多いことが分かります。中学3年生は、地域社会と学校のつながりをイメージして、アンケートに回答したようですね。



尾倉中学校全体の考え

合同遠足を楽しみにしていた気持ちも伝わってきました。運動会を応援しに来てくれた中学生もいましたね。



一番多かった言葉は「合同」でした。「ドッチボール」や「読み聞かせ」などと共に「部活動」や「体験」、「植える」なども、楽しい活動につながりそうですね。これから2学期に向けてどんなことができるか考えていきましょう。

(保護者の皆様へ) 児童生徒の考えを見ても、様々な場面で交流したいという気持ちが表れています。しかし、一口に交流と言っても、発達段階が異なり、いきなりの交流が難しい面もあるでしょう(体力が異なるのでケガ等につながる場合もあります) 児童生徒の願いを、私たち尾倉中・血倉小の教職員が精査し、効果的な取組を推進していきたいと考えています。小中連携のよい点としては、「小学校から中学校への接続がスムーズに行うことができ、中1ギャップ、不登校の減少につながる」「小学校時の学習で定着しきれなかった内容を中学校の課程において補うことが容易になる」「異年齢とのコミュニケーションの機会が増える」「小学生の中学生へのあこがれや中学生の小さい子への思いやりが育まれる」「小学校の時から子どもを見続けている先生が中学校にも来るので安心である」などが一般的に挙げられるでしょう。一方で、注意点としては、「小学校と中学校の節目がなくなり、新たな気持ちの切り替えや進学する充実感がなくなる可能性がある」「小学生が中学生をこわがってしまうのではないかと心配がある」「小学校と中学校の組織文化、習慣の違いが大きく、その調整に時間がかかる」などがあります。メリット、デメリットが表裏の関係にあるものに関しては、メリットを伸ばすことでデメリットへの対応が可能と考えています。小中一貫教育モデル校といっても基本的には小学校と中学校なので、それぞれ入学式、卒業式等があります。節目がなくなるという心配を含め、さまざまな教育諸問題に対し、小学校と中学校が連携・協力して問題解決をしていくのが、小中一貫教育でもあります。上の注意点に関しては、双方の教職員が共通理解をし、学校運営や生徒指導を行う中で対応できるものと考えています。

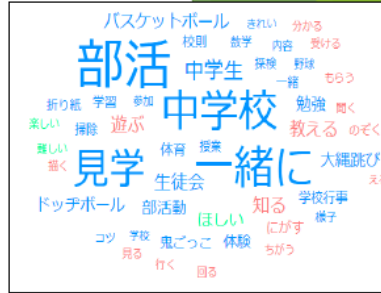
尾倉中学校のみんなと やってみたい、教えてほしい、 あんなこと・こんなこと

尾倉中学校と皿倉小学校は、
9年間を通してみなさんが成長できる
よう、小・中一貫教育をすすめます。
学校生活や学習・行事など、みなさん
は、中学生とどんなことをしてみたいで
すか？
アンケートの結果をお知らせします。



6年生の考え

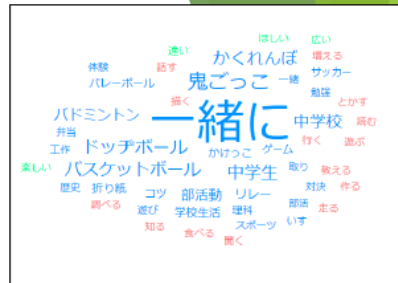
6年生のアンケートの中で一番多く
出てきた言葉は、「部活」でした。
他にも「中学校」「一緒に」「見学」な
どの言葉が大きいことから、6年生は、
中学生と一緒に活動したい気持ちと同
時に、見学をして中学校について知りた
いと思っている人が多いことが分かります。
6年生は、小学校卒業後の自分自身
の中学校生活をイメージして、アンケー
トに回答したようです。



【英語教育（英語科・外国語活動）について】
文部科学省の調査では、小学生の約80%
が「英語の学習が好き」、また約90%が「英
語が使えるようになりたい」と回答するととも
に、中学生の約80%が小学校外国語活動で
行ったことが、中学校外国語科で役立ってい
ると回答しています。また、外国語活動導入前
と比べて、中1の生徒に「成果や変容がとて
みられた」「まあまあみられた」と感じる英語
担当教員が約80%となっており、英語の基
本的な表現に慣れ親しんでいる、英語を使っ
て積極的にコミュニケーションを図ろうとする
態度が育成されている、英語で活動を行うこ
とに慣れているといった指摘がなされていま
す。また、小学校で外国語活動を経験した中
学生の聞く力や話す力が高まったという指摘
もあります。先進的な学校においては、小学
校低学年から外国語活動に取り組むととも
に、中学校とのカリキュラム上の接続を意識
した取組などが行われており、生徒の英語学
習に対する意欲が中学校以降も維持されたり、
英語力が向上したりしている取組が見られ
ます。

4年生の考え

4年生のアンケートの中で一番多く
出てきた言葉は、「一緒に」でした。
「一緒に」の言葉のまわりには、一緒
にやってみたい内容が多く出てきていま
す。
勉強や学校生活よりも「鬼ごっこ」や
「ドッジボール」を一緒にやりたいと思っ
ている人が多いことが、文字の大きさか
ら分かりますね。
元気いっぱいの4年生らしいアンケー
ト結果になりました。



4・5・6年生の考え方を比べてみよう

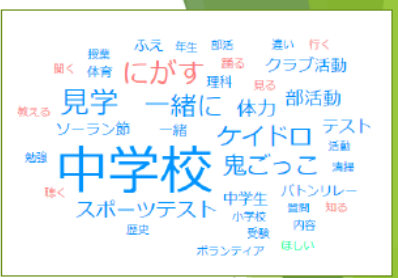
	4年生	5年生	6年生
多かった言葉	一緒に 鬼ごっこ かくれんぼ バスケットボール ドッジボール	中学校 一緒に 見学 ケイドロ 鬼ごっこ	部活 中学校 見学 一緒に 中学生



どの学年も、「一緒に」という言葉が多かった言葉5つ
のうちに入っていますね。
一緒にできることや、その時期、方法を考えて、みんな
楽しくためになる活動ができるといいですね。

5年生の考え

5年生のアンケートの中で一番多く出
てきた言葉は、「中学校」でした。
「一緒に」の他に「見学」が出てくるこ
とから、中学校への関心が4年生よりも
ぐっと高まっていることが分かります。
それでも、「ケイドロ」「鬼ごっこ」の文
字も大きいのは、やはり、一緒に遊びた
いという気持ちが強いのでしょうね。
中学校生活を意識し始めた、5年生ら
しいアンケート結果になりました。



【英語教育の課題】

外国語活動への取組が充実してきたものの、地域や学校、教員によりその取組に差があるという指摘があります。また、ALTの
労務管理上、学級担任等とALTとがチーム・ティーチングができない状況もあり、ALTに指導を任せてしまうという状況も指摘さ
れているようです。小学校高学年は、抽象的な思考力が高まる段階であるにも関わらず、外国語活動の性質上、体系的な学習で
はないため、中学生の約70%以上が小学校で「英単語・英語の文を読むこと」、80%以上が「英語の単語・文を書くこと」をして
おきたかったと回答するなど、学習内容にもの足りなさを感じている状況が見られます。外国語活動は、児童が、自らの考えを英語
で表現するための十分な語彙や表現を身に付けることは意図されていませんが、コミュニケーションに積極的に関わろうとする態
度は育成されています。小学校中学年から学習は開始されているに伴い、英語学習への動機付けをさらに高め、コミュニケー
ション能力の素地を養うことで、小学校卒業時まで慣れ親しみや体験的理解に加えてコミュニケーション能力の基礎を身に付け
させていくことが必要です。
小・中連携の観点からは、小学校において中学校での指導を意識した指導が、中学校においては外国語活動を踏まえた指導が
不十分だと言われています。
尾倉中では、小学校の教科書を職員室に設置しており、全教員がいつでも小学校の内容を確認することができるようにしていま
す。特に、英語科では、小学校の内容を踏まえながら、「話す」「書く」「聞く」「読む」技能を高めていきたいと考えています。

英語教育について